

令和4年度

一般社団法人 埼玉県校外教育協会委嘱 校外教育研究紀要

研究主題

「地域に学ぶ豊かな体験学習を通じた『地域に貢献できる生徒』の育成」



神川町立神川中学校

〒367-0232 埼玉県児玉郡神川町新里450

TEL : 0495-77-2409 FAX : 0495-77-2410

E-MAIL : kamichu@mail.wind.co.jp

1 はじめに

本校は、埼玉県北部に位置し、梨の生産を初め、農業を中心的な産業とした農村地域にある。近くを利根川の支流である神流川が流れ、川を渡ると群馬県藤岡市であり、住民の多くの方が経済的なつながりを群馬県に持つ地域である。

町内1校の中学校であり、町内の小学校4校から生徒が進学してくる。生徒数313名、通常学級9学級、特別支援学級3学級、合計12学級の中規模校である。生徒のほとんどは自転車通学であるが、南部の渡瀬地区の一部や神泉地区の生徒は、バス通学である。

2 研究の概要

(1) 研究主題

「地域に学ぶ豊かな体験学習を通じた『地域に貢献できる生徒』の育成」

(2) 研究主題設定の理由

本校では、一昨年度から、キャリア教育を大きな柱として、全ての教育活動にキャリア教育の視点を生かした取組を行ってきた。校外教育においても、地域に学ぶ活動を積極的に取り入れ、自分が暮らす地域についての理解を深め、地域の方との交流の中で地域の課題を考えさせることにより、日頃の教育活動で培った「基礎的・汎用的能力」を実践に生かし、伸長することができるようにしている。その学習の最終的なゴールは、将来的に「地域に貢献できる」生き方ができるかどうかであると考え、本主題を設定した。

(3) 研究のねらい

①わが町「神川町」について理解を深めさせる。

小学校のころから町の産業などについて生徒は学んできているが、町内4つの小学校の地理的な環境は大きく違っており、それぞれの学習内容で中心的に扱われるものについては差が見られる。そのため、全町的な視点で改めて学習する必要性がある。

②「神川町」の課題について考えさせる。

神川町の課題を考える時、一町だけの問題ではなく、神川町を取り巻く地域（本庄児玉郡市・埼玉県）も含めて学び、広い視点で考えていく必要がある。その際、他の地域とのつながりで考えたり、比較をしたり、過去と現在の比較をしたり、社会の中での位置づけなどについて考えたりするなどの視点が重要となる。

③地域に貢献しようとする意欲の醸成を図る。

神川町の発展の為に、神川町の課題などから学んだことを生かして、どのような生き方をしていくことが望ましいのか、どのようにしたら貢献することができるのかを考えさせる。その際、ネガティブな発想ではなく、「神川だからこそできることは何か」というポジティブな発想を持てるようにしていく。

(4) 研究計画と概念図

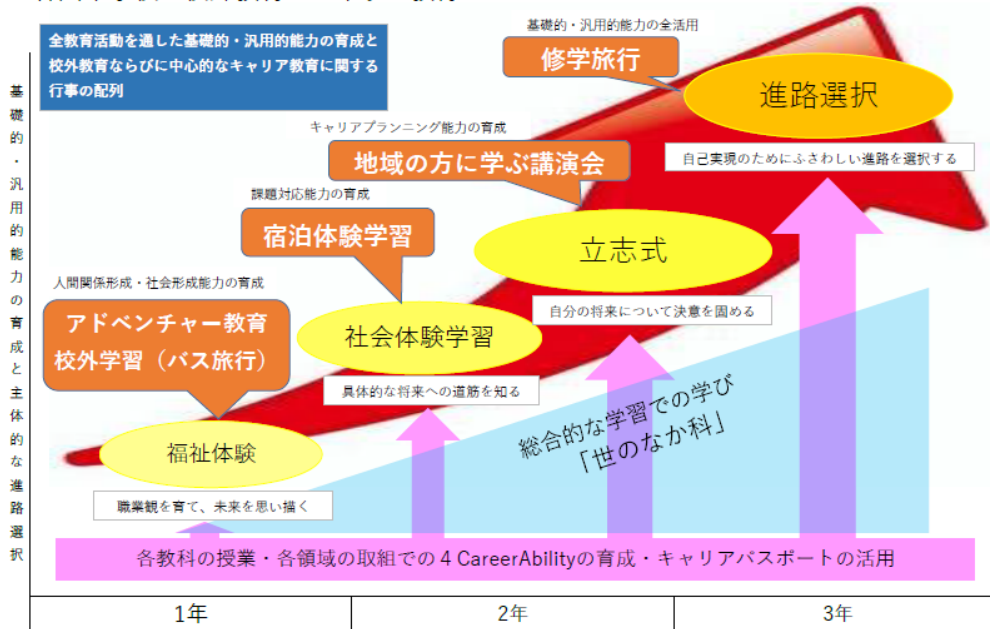
- 4月 キャリア教育アンケート アドベンチャー教育（1年生）
- 6月 宿泊体験学習（2年生） 認知症サポーターキッズ学習会（1年生）
- 7月 校外学習（1年生） 修学旅行（3年生） 中学生議会への意見提出（全学年）
- 8月 中学生議会（代表者）での質問・意見発表
- 9月 ハローワーク講演会（1年生）
- 10月 「世のなか科」日本薬科大学連携事業【日本薬科大学による講演会（3年生）】
- 11月 「世のなか科」日本薬科大学連携事業【(株)ヤマキの方による講演会（3年生）】
- 12月 「世のなか科」日本薬科大学連携事業【(株)ヤマキの方による醤油・豆腐作り体験（3年生）】
- 1月 地域の方に学ぶキャリア教育講演会（2年生）
- 2月 立志式（2年生） 福祉施設訪問（1年生）

※昨年度まで1年生で実施していた社会体験学習を来年度より2年生で実施することとしたため、今年度の社会体験学習は実施しなかった。

- 3月 次年度に向けた検討会議（本年度の成果、課題、改善点など）※関係者のみ
- ①社会体験学習の実施について（1学年実施→2学年実施）
 - ②「世のなか科」日本薬科大学連携事業の拡充（大豆作りからの体験）
 - ③各校外学習の実行委員会の効果的な運用に向けて

※4

神川中学校 校外教育・キャリア教育のイメージ



CareerAbility = キャリア教育における基礎的・汎用的能力

3 具体的な取組

(1) アドベンチャー教育（1年生）

キャリア教育における基礎的・汎用的能力のうち、特に人間関係形成能力・社会形成能力の向上を図るため、神川げんきプラザのアドベンチャー教育プログラムを活用している。目標に向け協力し合うことの大切さを学び、より良い仲間づくりに生かしている。



(2) 校外学習（1年生）

川越へのバス旅行を通して、人間関係形成能力・社会形成能力を高めるために、班での話合い、班行動などに重点を置いて取り組んだ。埼玉県を代表する観光地である川越の歴史や文化などについて学ぶことで、自分たちの暮らす埼玉県についての理解を深めることができた。



(3) 福祉施設の方を招いた講演会（2年生）

昨年度まで1年生で実施していた職場体験学習を来年度から2年生で実施することとし、1年生では神川町の福祉について学ぶこととなった。移行期の今年度は1・2年生の両方が福祉について学ぶこととなったが、コロナの関係で施設訪問が実施できず、2年生のみ町内の施設の管理者の方や利用者の方をお招きして、講演会を開催することができた。



(4) 宿泊体験学習（2年生）

いろいろな不便な体験をしたり、みんなで励まし合いながら行動したりすることが求められる宿泊体験学習では、課題対応能力の育成がその中心となる。飯盒炊飯やカレー作り、焼き板体験、三峰山登山、キャンプファイヤーなどを通して、困難や課題を克服するための力をつけた。



(5) 地域の方に学ぶキャリア教育講演会～立志式（2年生）

神川町内や近隣にある専門学校の方々（教員・専門学校学生）、地域で活躍している卒業生や企業の方、様々なジャンルの仕事に従事されている方などをお招きして、ブース形式による講演会を昨年度より実施している。「神川町だからこそのできる」「この地域だからできる」というポジティブなメッセージを講師の方々からもらうことができ、生徒たちのキャリアプランニング能力の育成につながっている。ここで学んだことを立志式での意思表示に繋げている。



(6) 修学旅行（3年生）

3年生の修学旅行は、コロナの影響により予定地の変更や時期の変更等もあったが、コロナ禍期間中の3年間とも実施できている。修学旅行は、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の全活用が必要な行事であり、中学校の校外教育の集大成と考えている。



(7) 総合的な学習の時間「世のなか科」（全学年）

総合的な学習の時間のカリキュラムに「世のなか科」という時間を設定し、1年生では「自分や地域を知る」をテーマとし、神川町の歴史や文化について調べることや、神川町の福祉について調べ、福祉施設訪問に取り組んでいる。2年生では「地域とつながる・志を立てる」をテーマとし、社会体験学習を中心として（4）で述べた地域で働く人々から学ぶこと、立志式に取り組んでいる。3年生では「地域に貢献する」をテーマに、地域の企業との連携を進め、企業紹介のパンフレットや町おこしにつながるパンフレットづくりに取り組んでいる。今年度、日本薬科大学との連携を神川町が協定締結をしたことから、3年生がその中心となりコラボレーションによる製品開発プロジェクトを含めた取組に関わることとなった。



4 成果と課題

コロナ禍の中でできることを考え、カリキュラムマネジメントを生かし、「地域に学ぶ体験的な学習」に取り組んできた。いろいろな制限がある中、地域との連携を進められたこと、体験的な学習がいろいろな形で実施できたことは、とても大きな成果である。

また、タイミングよく日本薬科大学とのコラボレーションの話もあり、地域の企業との連携を進めるプロジェクトに関わることができたことも、今後につながる大きな成果である。来年度は大豆を作るところから生徒が関わり、より発展的に校外教育に取り組める見込みとなっており、生徒が地域の中で豊かに学ぶ姿が実現できるものと確信している。

今後の課題としては、働き方改革に関係して行事の精選が求められている中で、適切な取組を適切な時期に計画・実施することが大きな課題であるが、チーム神川中でその課題に取り組んでいく所存である。